

「自分と未来は変えられる」を信じて！

近頃の若者の心情に関する記事「『若者たち』を読んで（HP「雑学 BN」の書籍等読後感関係（V）、2009.09.30.：参照。）」、「結婚式に疑似友人役の派遣契約って、どういうこと？（HP「雑学 BN」のマスコミ等コメント関係（V）、2009.10.01.：参照。）」を、先に当 HP に掲載した。

授業等で若者たちに接する参考になればと、TVのネットドキュメント「青春リアル」を時々見るようにしている。

番組紹介サイトでは、「社会状況がめまぐるしく変わる中、何に価値を見いだし、どんな葛藤があるのか。悩みや主張を語り合おうとウェブ上に『この街で語り合いたい』と参加に名乗りをあげた10～20代のレギュラーメンバーによるリアル・タウンという街が作られた。」とある。

先日の事例は、中学時代のいじめがきっかけで、15年間、部屋の雨戸を閉め切ってひきこもっていた青年が、メンバーたちの叱咤激励を受けながら“部屋の雨戸”を開けるまでの日々を追ったものであった。

ひきこもり関連の番組を見ていつも思うのだが、人間関係で精神的に傷ついたがためにひきこもりたくなる気持ちは分からないでもないが、その状況から抜けだそうと一番苦悩しているのも本人だろうと思う。

そうであれば、あれこれ人生に苦悩し抜け出す方法に葛藤する自分以前に、一人の「人」としてのいわゆる日常生活（朝になれば雨戸を開ける、食事する、入浴する、部屋を片づける、等々）を淡々と過ごす自己コントロールすることがまず必要でないかと、つい思ってしまう。

番組の事例の若者は、番組のレギュラーメンバーに参加するという自身が変わりたいという気持ちを実行に出し、朝になれば“部屋の雨戸”を開くというごく日常的な一コマ、一コマを実行する大事さにやっと気づいたとも云える。

「生命体」としてまずは生きる、そして「人」としてまずは日常生活を淡々とこなし、その上に立ってこそ時には苦悩を伴いながらも自らの人生を思索する個性ある一人の「人間」の営みがあるのでないだろうか。

「人と過去は変えられない。自分と未来は変えられる」という言葉があるように、過去は過去として、自分の未来のために変わり得る自分を信じて、まずは日常生活である“部屋の雨戸”を開ける勇気を持って欲しいと、つくづく思う。